バリアフリーシアターのはじまり
"実験劇場"の巻

オモシロそうだナ
武重邦夫さん
初代映画祭代表
やってみましょう!
即決!!

「うなぎ」をやればいいよ
しんゆり映画祭の"生みの親"
今村昌平監督

公共施設のフリースペースでの朝から晩までの作業。
時には閉館時間を過ぎ、
職員
わいわい
あの〜、あの〜…
あまりの自熱ぶりに、職員も声をかけることができなかった…という。

ブースの小さなモニターで進行する映画を見ながらの"ライブ朗読"
その声は劇内設置のアンテナを通し、お客様のラジオへ送られる。

映画祭創世紀、
いろいろなアイディアをつのそいた
市民がれもぶ ベスト10!!
希望の映画やります
しんゆり映画
そんな'97年のこと…
これだわ!

この試みをどう実現させるか
日本映画学校(当時)の方々がいろんな下調べをした。
技術面については、
なんとかできるんじゃない!!

ついに、台本制作へ
映画学校の学生が担当
ハイ!
学生
しかし、学業多忙で頓挫…
学生
ふりだしに戻る〜

こうした試行錯誤の末、
記念すべき"副音声台本"が完成
うなぎ
手書きです!!
上映に向けた朗読練習
(これも「さんざし」が担当)

上映直前、お客様のラジオで受信確認のテスト放送する。
まさに"実験劇場"
スクリーン
OK!
こうして上映がはじまった
OK!

視覚障がい者のために映画に副音声解説をつけてくれませんか?
「さんざし」という朗読ボランティアグループの代表・武村さんが事務局に電話をかけてくれた。

しかし、
映画に解説だって!?
認められるわけない!
台本、かせません。
立ちはだかる製作者許諾の壁

次に白羽の矢が当たったのは…
あなたたちでやってみない?
(by武重さん)
ビュンッ
だんっ!!
「さんざし」の皆さん!!
あたぁ〜りぃ〜いぃ〜
※映画祭恒例の"いだしっぺの法則"

上映当日、早朝から総出で劇場に通路奥に小部屋をつくる
ここ!!
スクリーン
スクリーン
朗読用ブースである!!

上映後のお客様からの感想…
何十年ぶりかに映画を見たわ!!
見えている人たちと同じところで笑えた!!
うれしかった〜!
役所さん(まんさん)が刑務所からでカクカク歩くところ!

大阪のシネヌーヴォで近所の高校の演劇部員が字幕朗読をした新聞記事を読んだこと、
歌舞伎では、あらすじや解説が
FMラジオから聴こえること、などいろいろなアイディア
武村さん

どよーん
SHINYURI FILM FESTIVAL STAFF
イマヘイさんがサ、
ちょいちょい
おーい!
武重さん

こうして、「さんざし」メンバーのこの後10年に及ぶ"熱い夏"がはじまった…
DVDを見ながらの各メンバーによる台本書き、持ち寄りのディスカッション
あーでもない
こーでもない!
喧喧諤諤

劇場内には、中継用のカメラを設置し、
スクリーンの映像をブースに送る
スクリーン
STAFF

この実験の成功で
副音声ガイド付上映は
映画祭に定着する。
しかし、映画祭の"やってみよう精神"はとどまることを知らぬ!
(つづく)